

<日程> 6月26日(土) 13:00~17:20 「開会/記念講演/分科会」12:15~受付開始
17:40~18:30 「第18回総会」
18:40~20:30 「懇親会」

6月27日(日) 9:30~12:30 「パネルディスカッション」



<会場> コープイン京都 ※分科会は二つの会場に分かれます。

統一テーマ:くらしの変化と協同組合の社会制度への関心

～よりよく生きる(ウェル・ビーイング)ために地域で学びつつ“きずな”を創る～

(開催趣旨)

昨年の総会記念シンポジウムでは、生活協同組合のマネジメントへの問題関心を突きつめると人材養成＝“ひと”の問題に行きつくということで、「つながりづくり」や「学習する組織」の重要性について明らかにしました。今回のシンポでは、“家族”や地域の“くらし”の変化に着目しながら、農業・生活・環境・福祉などの社会の制度や政策に関わる諸問題に対し、協同組合が関わることの意味内容を多面的に検討したいと考えて、「よりよく生きる」(ウェル・ビーイング)という視点から分析したいと思います。

私たちが「しあわせ」に暮らしていくためには、日々の生活や仕事を通じて気がついた問題を取り上げ、<みんなが幸せになるようなやり方>で解決していく必要があります。また、目の前の個人の問題に対応するだけではなく、<学習すること>で根本原因にまで立ち入って社会的に解決することが求められています。このように「社会に対する声」をあげ、協同して「社会の構造そのものを変えていく力」を持った“新しい人間”のつながりを創っていく必要があるのではないのでしょうか？

2009年11月の生協総合研究所の研究集会で蓮見音彦氏(東京学芸大学名誉教授)は、大内力さん(元全国大学生協連会長・生協総研理事長、2009年逝去)が、21世紀は「協同」の体制以外にありえないが、そのためには人間の生き方(個々人の消費の仕方、働き方、社会的な活動の仕方等)すべてについて基本的な改革が必要だとされ、「協同組合の活動は、新しい人間のあり方を創造していくための学校です」(『協同組合社会主義論』こぶし書房、2005年)と指摘されていたことを紹介されました。私たちも、よりよく生きるために「生活を変え、社会を変える」という視点を取り入れることが大事だと考え、協同組合が社会制度へ関心を持って、短期的な視点だけではなく、中・長期的な視点に立って、よりよく生きるために「地域で協同して、よりよい社会を築く」ための問題提起をしていくことに着目したいと思います。

今年のシンポジウムは、くらしと協同の研究所で日常的に行われている研究活動をベースに組み立てている、という特徴があります。協同組合の組合員・理事・実践家と研究者が、対等な立場から多様な意見を交換するところに、我が“くらしと協同の研究所”の良さがあります。総会シンポは、皆さまが活発に議論し交流する(＝“きずな”を創る)場です。どうぞ、ふるってご参加ください。

<記念講演>

植田 和弘氏 (京都大学大学院経済学研究科地球環境学堂教授)

「持続可能な地域社会と新たな協同の可能性—地球温暖化防止の環境経済戦略を中心に—」

13:00~14:10

開会挨拶・開題：上掛 利博氏（当研究所研究委員会代表 京都府立大学教授）

記念講演：「持続可能な地域社会と新たな協同の可能性ー地球温暖化防止の環境経済戦略を中心にー」

植田 和弘氏（京都大学大学院経済学研究科地球環境学学術教授）

日本社会は、2020年までに温室効果ガスの排出量を1990年レベルから25%削減する、また2050年までには80%削減するという地球温暖化防止の課題に直面している。環境と経済のトレードオフという通念を克服し、この課題に対して環境経済戦略と呼ばれる取り組み方をしていかなければ課題を達成できないし、またそうした取り組み方をするには持続可能な福祉社会を構築する新たな協同の可能性を切り拓く取り組みでもある。

14:30~17:20

第1分科会「組合員とその家族への多様なアプローチ

～“くらしの調査”“家族調査”“おしゃべりパーティ”から家族の姿に迫る～

コーディネーター：中川 順子氏（当研究所研究委員 立命館大学教授）

趣旨：私たちの暮らしや家族、地域コミュニティの姿は、以前に比べると随分大きく変化し、多様化が進んでいます。生活の基礎的な単位である家族、地域コミュニティの変化や、組合員のくらしの意識と生協の利用実態などから、組合員とその家族や暮らしをどうとらえるかを考えます。

報告：玉置 了氏（当研究所研究委員 近畿大学准教授）

吉村 恵氏（女性と仕事研究所 研究員）

第2分科会「生協・協同組合が『食と農をつなぐ』ということ。。。～フードシステムの多様な意味を考える～」

コーディネーター：北川 太一氏（当研究所研究委員 福井県立大学教授）

趣旨：生協（協同組合）が「食と農をつなぐこと」とは？フードシステムを単なる農産物・食料の流れとしてではなく、地域を舞台に、食と農を通じた、人、資源、文化、小さな経済など多様なつながりづくりとして捉えて考えます。

報告：福永 晋介氏（京都生活協同組合 産直・地産地消担当）

力石 さち氏（料理研究家）

コメンテーター：朝倉 裕貴氏（研究所会員・「食の懇話会」メンバー）

原田 英美氏（京都大学大学院）

第3分科会「地域で福祉の“つながり”づくり」

コーディネーター：上掛 利博氏（当研究所研究委員会代表 京都府立大学教授）

趣旨：家族や地域のくらしが大きく変わるなか、協同の組織がかかわることで、新たな“きずな”（＝生活の協同）が結ばれる可能性が多くあります。人間の幸福（＝福祉）のために「地域でくらしの再生」について具体的な経験から考えます。

報告：「小幡店の“いっぴく茶屋”と寺子屋のとりのくみ」（仮）…向井 忍氏（コープあいち常務理事）他「京丹後市大宮町奥大野での女性たちが関わった村づくり」（仮）…奥大野村づくり委員のみなさん「おひとり様に受け入れられる夕食宅配の事業」（仮）…有吉 政博氏（コープやまぐち理事長）

第4分科会「持続可能な社会と生協の環境対応」

コーディネーター：的場 信樹氏（当研究所理事長 佛教大学教授）

趣旨：経済活動や社会生活の面で環境（問題）への対応が当たり前になりつつある現在、生協の事業や組合員活動の現状と求められる課題、その可能性について考えます。

報告：原 強氏（当研究所研究委員 コンシューマーズ京都理事長）

大沢 年一氏（日本生生活協同組合連合会 環境事業推進室室長）

第5分科会「生協経営のあり方を考える ～コープさっぽろ訪問調査結果について～」

コーディネーター：若林 靖永氏（当研究所研究委員 京都大学大学院教授）

趣旨：昨年のシンポジウム以降、生協経営のあり方をめぐる議論があり、それを受けて生協経営研究会が昨年秋に発足しました。その最初の取り組みとして、3月にコープさっぽろの訪問調査を実施しました。本分科会では、その結果報告を中心に今後の生協経営のあり方について考えます。

報告：二場 邦彦氏（当研究所研究委員 立命館大学名誉教授 京都生活協同組合理事長）

ほか未定

「くらしの変化と協同組合の社会制度への関心

～よりよく生きる(ウェル・ビーイング)のために地域で学びつつ“きずな”を創る～

コーディネーター：上掛 利博氏 (当研究所研究委員会代表 京都府立大学教授)

パネリスト：中川 順子氏 (当研究所研究委員 立命館大学教授)

北川 太一氏 (当研究所研究委員 福井県立大学教授)

的場 信樹氏 (当研究所理事長 佛教大学教授)

二場 邦彦氏 (当研究所研究委員 立命館大学名誉教授 京都生協理事長)

参加申込・宿泊等のご案内

1. 申込み 裏面の「参加申込書」に必要事項をご記入の上、FAXなどでお申し込みください。

★ただし、個人会員の方は、「総会出欠確認ハガキ」(同封)にて、シンポジウム等お申し込みください。

欠席の場合は必ず、上記ハガキの「委任状」にご記入いただき、ご返信をお願いいたします。

2. 参加定員 150名 会場の都合上、定員になり次第受付を締め切らせていただきます。

3. 参加費

	両日参加	1日参加
会員(団体・個人)	3000円	2000円
非会員	5000円	3000円
学生・院生(社会人除く)	2000円	1000円

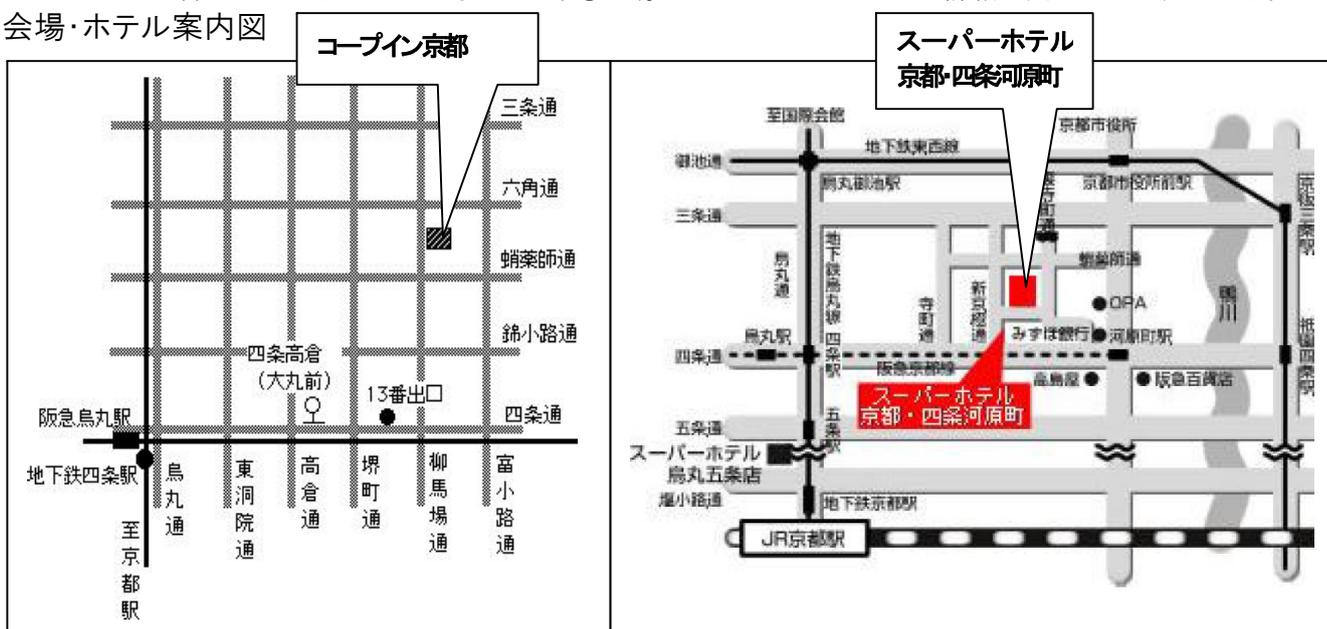
4. 懇親会 6月26日(土)18:40～ 参加費5000円 (多くの皆さまのご参加お待ちしております)

5. 宿泊

幹旋ホテル	部屋タイプ	1泊料金	備考
コープイン京都	シングル (53室)	7300円	シンポジウム会場。朝食付。
スーパーホテル 京都・四條河原町	シングル (30室)	7480円 (朝食無料)	新しいホテル(築1.5年)で、天然温泉有(男女入替制)。会場から徒歩10分弱。錦市場を通り、寺町と新京極を越えるとすぐ着きます。繁華街で、夜の懇親にも便利!

注)①ホテルのご希望は、先着順にて承りますのでご了承ください。②急なキャンセルの場合、規定に沿ってキャンセル料がかかりますことをご承ください。③会場からスーパーホテルまでの詳細地図は当日お渡します。

6. 会場・ホテル案内図



コープイン京都 (全体会場および宿泊)

TEL : 075-256-6600 京都市中京区柳馬場蛸薬師上る

※市営地下鉄「四條駅」または、阪急「烏丸駅」から徒歩約13分。

スーパーホテル京都・四條河原町 (宿泊のみ)

TEL : 075-255-9000 京都市中京区新京極通四條上る中之町